

平成28年度 第2回宜野湾市市民協働推進協議会 会議録（要旨）

日時：平成29年2月21日（火）午後7時00分～午後9時00分

場所：宜野湾市役所 第三常任委員会室

出席：岩田直子委員長、稲垣暁委員、島袋盛子委員、宮道喜一委員、宮城美由委員、
松田朝仁委員、新垣真弓委員

欠席：大仲るみ子委員、久米保源委員、松本勝利委員
事務局（3名）

市民協働推進課長あいさつ
各委員自己紹介

開会

委員長 議題1に入ります。事務局より前回協議会の振り返りをお願いします。

～事務局より前回協議会・ワークの振り返りを説明～

委員

- ・地域に関わりたい気持ちのある方を発掘していくのが役割。
- ・この協議会をいかに知らせていくか、その時期に来ている。
- ・次の世代をどうつなげるかの段階に来ている。

委員長 次に議題2の評価の方法について事務局よりお願いします。

～事務局より評価の方法について説明～

委員長 評価の方法については議題3の後に振り替えるということで、次の議題3について事務局よりお願いします。

～事務局より具体的施策の事業報告～

- ・地域づくり塾・交流カフェ・市民協働研修・地域づくり講座

委員

- ・地域づくり塾での報告会を他の地区の方々にも聞いてもらうことは大事だと思う。
- ・市報を利用してでも知らせた方が良いと感じました。
- ・行政が発信するには制約が多い、手段が限られている。
- ・行政の発信というよりいろんな方、関係者が絡んでやることで、そのメンバーが自主的に広報する、住民レベルでの広報が、行政がやるより効果がある。
- ・動画で上げてほしい、参加された方がフェイスブックでユーチューブを共有する流れを作ることで拡散する。

- ・行政の職員研修もユーチューブを使って発信されるといい、他の自治体にマネしてもらいたいことがたくさんある。
- ・市民としても行政の改革が起きていると知ることですうれしい。
- ・その動画が飛び交うことで興味と関心を引く。
- ・職員研修の最後に動画づくりのプログラムを入れてもいい。
- ・地域交流カフェも動画にするのもすごくリアルで面白い。言葉では伝えるのが難しい。

委員長 説明していただいた4つの事業について委員の皆さまよりコメントを頂きたいと思います。

《ワーク》

《地域づくり講座》

地域づくり講座やコーディネーター養成講座への募集や人材育成に繋がる《広報活動》

- ・終わった後の活躍につなげるために、参加してどうだったのか発表する場を企画する。
- 人と人、人と資源というつなぎ役の育成につながる（人を知る、資源を知る）

- ・課題の引き出し方、場づくりの設定の視点など、講座を通して育成につながる。

地域の歴史などの講座を行うことで地域を知り人を知り→地域活性

- ・地域活性することで協働が生まれる。

地域づくり講座 社会

- ・繁多川公民館と若狭公民館をヒアリング。
- ・社会教育の視点の取り組みは大切（歴史を学ぶ、地域のことを知る）
- ・社会教育の取り組みが地域の中でどう展開できるか。
- ・自治会も要望すると中央公民館の講座としてできる。
- ・徹底して地域の歴史を掘り下げると忘れ去られたものが見えてくる。

《話し合いの場づくり地域課題共有》

地域づくり塾や交流カフェの報告会をぜひ自治会長会にて開催してほしい（課題の掘り起し、解決に一役担う）

- ・動画を見せて行ってほしい。

誰もが参加しやすい場づくり（地域事業への参加）

- ・地域の事業をやることで、人が集まり、地域を知り、行動につながる。

南城市むらや一事業 学び

- ・外に学ぶのもいい。
- ・自治公民館を拠点に地域づくり。
- ・南城地域デザインセンター（中間支援）が自治会をサポート。
- ・ゆんたく会を開催（交流を促すものから行政との話し合いまで）

話し合いの場づくり 全ての取り組みの要素あり

- ・話し合いの場はいろいろな所に関わっている。
- ・話し合いはベースである。

「働いているひとたち」とどう距離を縮めるか→戦力に

- ・働いている人たちは、まちの人を知らない。
- ・昼間働いている人たちの価値観の転換。

- ・サラリーマンや日中労働している世代が入ってくると、もっと変わる。

データ・情報から活動につながる場づくり→高校生の事例

CDの課題の引き出し方、場づくりの設定、視点が広がる

《各主体のマッチング》

企業との共通の活動を通して交流を深める、協働とは楽しいぞ！

マッチング後のプロセス モデルを示すだけでもアクションにつながる

- ・マッチングについてあまり意見がでないことから、ここは課題である。
- ・マッチング後の次の段階が無いとつながらない。

作戦を考える必要あり エンパワーメント

- ・マッチングすることで、違う人ともつながれる。
- ・主体のエンパワーメント。
- ・単体でやっていて、よそに情報が伝わっていない。
- ・認められる場づくり。
- ・マッチングはいろいろ工夫する必要がある。

技術・建築系の人たちとつながることによる新しい発見

- ・まち歩きなどに技術系の人ほとんどいない。
- ・阪神大震災で建築系の人とつながれたことで、視点や人生が変わった。

《市職員研修・協働推進員配置》

- ・研修で、つなぐ視点、内部外部にアンテナを張る人材育成。

地域に関心を持つ人が増える

課題共有、情報共有の仕組みづくり（ネット、広報、ラジオ）

協働推進員（協働の地域づくりの情報発信（全課）、手引きQ&A）

- ・協働推進員の配置はタイミングとしては早目がいい。
- ・現場では取り組みがすでにあるので、協働による地域づくりの具体的な情報発信を着実にやっていかないといけない。
- ・協働推進員と卒塾生が一緒になって協働の現場を取材して発信していく。
- ・情報発信と併せて協働推進員の配置ができるといい。
- ・現場での悩みや問い合わせにどう答えるかのQ&Aを作ってもいい。
- ・協働推進員は当て職でなく、やりたい人にやってほしい。

【交流カフェ】

交流カフェを視察研修とあわせて行うのはどうか？（子ども食堂取り組み、嘉手名の視察）

- ・市内にもやりたい人がいるが不安が多い、他地域の現場を見ることで参考になる。

出張カフェ、ザ・もあい

- ・地域コーディネーター養成講座で育ったヤンキーあがりの子ども達を出張カフェやザ・もあいに落とし込めたらいい。

子どもが喜んで参加できるタコヤキカフェ等につながる

- ・子どもが喜ぶことをして地域への参加意識を持たせる。

顔の見える関係づくり 視点が広がる 発想の展開につながる

- ・この3つがキーワード
- ・交流カフェの各自治会での開催をセッティングすることで活性化すると思う。

・開催したことを市報・ホームページに載せる、報告が大事、やったことを伝える。

個人が関わるきっかけになる

・主催者の想像以上に何かを残している。

交流カフェのひとつ手前のステージのニーズ（入門）

- ・議論の場に入れず帰った数人がいた。
- ・何かをやりたいと思っていても発言ができない。
- ・気付きの場、入門の場がほしい。

交流カフェのもうひとつ後のステージのニーズ（実践へ）

連動できる講座やイベントとの積極的なつなぎ。バージョンアップ/アップデート

理解ある行動力ある行政職員の積極的なつなぎ→新しい活動・連携へ

- ・熱意のある職員がいるのといないのでは大きな違いがある。
- ・熱意を育てるのが協働のひとつ。

複数部門（行政内部）の協働が地域アクションにつながっている ・カフェ、伊佐

【市民協働研修】

市民協働研修の様子を動画化して市民に報告してほしい！連携につながる

庁内連携取り組みすばらしい。情報発信

- ・ホームページを活用して発信する。

庁内の協働予想以上のスピードで広がっている

- ・養成講座に参加したいと盛り上がっているのはすごい。

【地域コーディネーター養成講座】

しまくとうば達人や地元ミュージシャンをコーディネーターに育てる。楽しい方が巻き込みやすい

- ・若年層やお年寄りにも協働が広がる。

青年会は元気があるので活躍の場を求めている。主役にさせる！講座

・ヤンキーあがりの子ども達を主役にさせる、しいてはコーディネーターをやることで更生していく。

同じ思いのある方とのネットワーク

- ・コーディネーターもそうだが、同じ思いで集まっているの方々がネットワークでつながることで、NPOを立ち上げたり何かできることにつながるという。

地域の課題の共有が図られた 協働という意識づけにつながっている

出番づくりにつながっている（自分が役に立っているなど）

- ・この場にいるすべての人に出番があるのがいい。

継続して行うことにより人材発掘につながる

やりたいこと・相談したいこと・つりたいこと）プレゼン発表の機会を（第2期プログラムの運営に）

- ・いかに一期生の出番をたくさん作っていくか。
- ・地域に意識が高まっているのでプレゼンできる機会を作っていくか。
- ・三期で100名のコーディネーターを育成する。インパクトがあり、変化が出てくる。
- ・一期生が二期のプログラムにどう関われるかの設計が大切。
- ・講座を終えた人たちの気持ちが高まっている時に活躍できる場を作っていくことが大事。
- ・100という数字は一万につながる、100という数字には凄い意味がある。

修了生の集まりの場に市民協働推進員の皆さんとの交流カフェをする！お茶会開催

- ・自発的にこの場を継続していきたいと思えたことがすごい、生の声を聞きたい。
- ・資格を取るだけの講座では無く、実践でやる現場に入っていくことになる。

呼びかけの工夫が必要

- ・第二回目は勝負。
- ・企業・教育機関も関わられるような呼びかけは必要。
- ・地域を知ることにつながる。

講座に参加された方の声を発表する（振り返り）、場の開催企画をする！実践につながる

【地域づくり講座】

親子で参加できる地域づくり講座があればよい

- ・小さい子ども大丈夫という仕掛けをつくり参加意識を持たせる。

元ヤンによる金融・労働講座（借金問題）→地域・専門職の支援

- ・学生も貧困である親の借金も肩代わりしている現状がある。
- ・闇金を体験した元ヤンキーの子たちが、金融問題や働き方の問題を話してくれることを地域や専門職が支援することで次のステップにつながる。

《その他》

おもしろいキャラクターをステッカーにして協働のネームバリューUP、周知！

協働につながるテーマを分りやすく発信する！

- ・キャッチフレーズ的なテーマがあってもいい。

自治会の連携未知。知りたい。

企業と教育機関の協働課題多し

- ・沖縄国際大学でも地域の伝統を知る地域学習会があるが同じようなことをやっている。

広報のモバイル化→①WEBでの共有口コミ ②説明の省略

- ・3分間の動画にしてしまうと説明が楽。

市民による・「協働」の表現 ・コンテンツ化

- ・市民が当たり前のようにまで持っていけるといい。
- ・行政の手を離れて勝手に動いていく。

対価のある労働との明確な区分け→労働単価切り下げにならないように

- ・非常勤や非正規で日払い労働が多いなか、協働やボランティアに仕事が流れていくと、雇用が崩壊してしまう可能性がある。
- ・協働する側が明確な区分をしないと見えない、所で苦しむ人が出てくるのではないか。

委員長 お疲れ様でしたワークの作業はこれで終わります。事務局から何かありますか。

事務局 議題2で説明しました評価の方法について、提案のフレームのように評価してよろしいでしょうか。

委員長 評価の積み重ねができたらいいいので、3年間はこのような形でいってほしい。協議会の評価は分らないので行政に対する意見と比較して言えることだけでも十分なのかもしれない。

委員 交流会などに参加された方の振り返りの声と担当の声の両方が見れると、評価をどうしたらいいかというところも解決できるのではないか。

委員 協働事業なので、行政側と参加者の声、第三者的な協議会でコメントが入れられる
といい。

事務局 次回も今日のような持ち方でよろしいでしょうか。

委員長 意見を出す側としてはやりやすかったです。

委員長 次回は3月28日（火）になります。本日はこれで閉会したいと思います。

閉会